

島根の地域医療

第9号 島根県健康福祉部医療対策課 '04.Oct.01
e-mail: iryou@pref.shimane.jp
▲いつでもどこでも適切な医療が受けられる島根を目指して▼



◇「専門医養成プログラム」第1号医師勤務開始!

事務局からこんにちは!

◆しまね地域医療支援センターが平成16年度に創設した専門医養成プログラムの第1号に、松江市出身で自治医科大学附属病院麻酔科の久保田倍生医師(40)が決まりました。久保田医師はこの10月から石見町にある公立邑智病院に外科医師として勤務されます。「研修が受けられる制度に魅力を感じた。地元のために協力したい」と意欲を示されています。

このプログラムは、全国から「島根方式」と注目されています。興味をお持ちの方はぜひお問い合わせください。ご希望によりご説明にも伺わせていただきます。◆また、隠岐病院と隠岐島前病院の産婦人科医師2名の両名が9月に退職されました。県では隠岐医療圏域での産婦人科診療体制確保のため県立中央病院から隠岐病院に産婦人科の常勤医師1名を派遣します。島根大学医学部及び松江赤十字病院からの診療応援も得ながら地域医療を支援することとなりました。

【しまね地域医療支援センター 坂本】

1,800人という対象人口は医師、看護師、保健師、栄養士など専門職が区別することなく重層的に関わることができます。また診療圏と行政圏が重なることで行政と一体となって予防活動ができるという期待がありました。

赴任してまず求められたのは村で発生する大部分の疾患へ適切に対応することです。そのため小児科や整形外科の研修にも通いました。また後方病院や医院への紹介とその返事一例一例が糧になりました。そして実は多くの問題は患者さんの話を充分聞き、普段の生活を知り、家族や近所の方やヘルパーさんから情報を得、対応を考えることで解決していき



ました。さらに地域全体に眼を向けると村で最も緊要な健康問題は脳卒中をいかに減らすかということがわかりました。当時弥栄村は脳卒中死亡が県平均の1.8倍です。放置されていた高血圧者の掘り起こし、救急隊との症例検討会、住民健康教室などが始まり5年後には死亡率は県平均に近づきました。しかし死亡は減っても脳卒中発症は依然として減りません。そこで基本健診を受けた448名を保健師と協働で5年間追跡調査し、10年以上の高血圧、心房細動、高血圧と糖尿病の合併など村の脳卒中の要因を自分たちで分析しました。現在これらをもとに脳卒中予防に根拠がある診療と指導、家庭血圧測定の普及などに取り組んでいます。

また基本的な医療は生活圏でとしながらも医療に対する要望は広がります。専門性を生かした医師の協力が不可欠です。毎年調査で眼科要望がもっとも高く、島根県の支援のもと、浜田医師会眼科の全先生方による月1回の眼科診療が実現しました。それまで市内眼科まで受診できなかった高齢者が受診できるようになり、高血圧や糖尿病網膜症の管理精度も上がりました。



そして今、浜田市、三隅町、弥栄村、金城町、旭町の市町村合併検討が進みこれまでの行政圏が大きく変わろうとしています。基本的な医療は身近な地域で受けられる体制を維持しながら新たな展開を模索中です。具体的には金城町国保波佐診療所の斎藤先生に週半日弥栄診療所に予防接種や小児慢性疾患の管理に来ていただき、私は金城町の糖尿病教室に参加するなどお互いの得

意分野を生かしてカバーし合うことを始めました。これを発展させ圏域の医療ネットワークの構築を提案しています。市街地を取り巻くように郡部の4つの国保診療所(現在3つですが旭町にも新設予定)の診療所連合体の形成です。4つの診療所に5人以上の医師を配置しカバーし合い、それぞれの得意分野を生かした診療や一箇所では確保できない専門職の配置、地域における新しい治療と予防の一体化、医学生・研修医の定期実習受け入れ...など夢は広がります。

さてその後福島県立医大から講義を聞いた学生さんが私の診療所に研修にきてくれました。私が「移植医療や遺伝子診断は最先端医療でしょうが、目の前の地域のニーズに最も的確に応えることも最先端ではないかな?」というときくなくずいともなりました。



【弥栄村国保診療所 阿部】

県のドクターバンクから

●求人・求職取扱状況

(平成16年9月30日現在)

<求人> 29件

邑智郡(病院)／整形外科、精神科
浜田市(病院)／内科
飯石郡(病院)／内科
出雲市(診療所)／胃腸科、肛門科
邑智郡(病院)／内科、整形外科、在宅医療
益田市(病院)／精神科
隠岐郡(その他)／不問
鹿足郡(病院)／内科、外科
仁多郡(診療所)／内科
出雲市(診療所)／在宅医療
那賀郡(診療所)／内科
鹿足郡(病院)／放射線科、内科、麻酔科
益田市(病院)／内科、循環器内科、神経内科、呼吸器内科
松江市(病院)／内科、麻酔科
浜田市(病院)／内科、放射線科
江津市(病院)／精神科
仁多郡(病院)／整形外科、眼科、内科
松江市(その他)／不問
八束郡(病院)／内科、リハビリテーション
松江市(その他)／不問
仁多郡(診療所)／内科、小児科
大原郡(病院)／麻酔科、精神科
出雲市(病院)／内科
松江市(その他)／内科
浜田市(その他)／内科
鹿足郡(病院)／整形外科、内科、リハビリテーション

松江市(病院)／内科、整形外科
邑智郡(病院)／外科、内科、整形外科、産婦人科、放射線科
大原郡(病院)／内科

<求職> 0件

●申し込み手続き及び詳細につきましては、当紹介所までお問い合わせ下さい。
[電話番号]0852-21-8813(専用電話)

[ホームページアドレス]

<http://www.shimane.med.or.jp>

/dcbank.htm

【担当:吉岡・塩田】

地域医療最前線その10

地域医療は最先端医療? “弥栄村国保診療所から”

世の中専門医指向ですが、「患者さんの身近なところで役に立ちたい」と考える医学生も増えています。今年6月に福島県立医大で島根の診療所の経験を話す機会があり講義後たくさんの学生さんから感想や意見をいただきました。ある学生さんから質問です。「将来地域で働きたいのですが、最先端の医療から取り残されませんか?」

私は平成8年糖尿病を中心に内科診療をしていた都市部の基間病院を辞し、島根県西部の山間にある人口1,800人の弥栄村の国保診療所に赴任しました。下肢の切断や失明、血液透析といった合併症が進んだ糖尿病患者さんの経験から、「基本的な医療は患者さんの顔が見える(生活が見える)ところでなされ、生活改善も生活圏でできた方が効率的で質が高いものになる」と感じていました。

本年も夏休みを利用して県内6ヶ所で「地域医療等研修」を開催し、34名の医学生が参加しました。地域医療等研修は平成14年度から自治医科大学と地域医療に興味を持つ島根大学医学部等の医学生を対象に、地域における医療及び公衆衛生活動に対する動機付けを行うことを目的に、医療機関や福祉施設等で3～4日の期間で行われています。

私は8/18(水)～8/20(金)に開催された隠岐島後地区の研修に同行しました。

初日は隠岐支庁健康福祉局にて管内の概況の説明を受けた後、隠岐病院の視察をしました。隠岐は観光の島ですが、透析患者さんが事前に連絡されていれば、旅行等で島に滞在される期間でも透析を受けることが可能であるということを知り、旅の人にまでも行き届いた患者さん本位の医療を心がけておられる様子がよくわかりました。

翌日は7名の学生が、都万村診療所を中心に研修する班と、午前中は五箇村診療所、午後には中へき地診療所を中心に研修する班の2班に分かれました。私は後の班に同行しましたが、五箇村診療所の館先生、中へき地診療所の三嶋先生の地域医療に対する熱意を感じました。

最終日は精神障害者共同作業所での研修を最後に隠岐を離れ、県立中央病院での意見交換会ですべての日程が終了しました。学生からは「医師になる上で大変参考になった」などの意見が出ました。



来年度も多くの医学生が参加されることを期待するとともに、この場をお借りしまして今回の研修実施機関である隠岐支庁健康福祉局、木次・川本・浜田・益田健康福祉センターの皆様と御協力いただいた方々にお礼申し上げます。



【医療対策課 木村】

地域医療最前線その11

新型救命救急センター完成 “松江赤十字病院から”

人口30万人あたり一カ所の救命救急センターの設置が法改正により可能となったことをうけ平成16年4月松江赤十字病院では全国に先駆けて**新型の救命救急センター**を開設いたしました。救命救急センターの役割は三次救急医療（生命に危険のある重篤患者の受け入れ）を担うこととされています。



救命救急センター

当院においては、これまでも三次救急に相当する患者さまを含めすべての患者さまを受け入れてきましたが、今回のセンター開設により名実ともに正式に**三次救急医療機関**となりました。

社会の高齢化により、脳卒中、心筋梗塞のような重症な病気が多くなり、また高速自動車道路が整備されるにつれ交通事故にともなう外傷の重症化などが懸念されています。こういったことに対応するためにも三次救急医療の充実を図ることが必要となってきました。ただ救急の重症患者さまの救命率を向上させるには医療機関のみの力では十分とはいえません。病院到着前より救急医療は開始されます。その重要な部分を担うのはその場に居あわせた一般の市民の方が最初であり、さらに通報を受けて駆けつけた救急隊員へとつながり最後に医療機関の病院という順番になります。救急医療はこのうちのいずれが欠けてもうまくいきません。最近では**自動除細動器(AED)**の使用も一般市民の方に許可されることになり心臓突然死を防ぐことが期待されています。さらに**救急救命士に気管挿管**など、より高度の医療行為が許可されることとなったのは病院到着前に必要な処置を迅速に行うことこそが救命率向上に大きく寄与することになるからです。当院の救命救急センターはこういった救急救命士をはじめとする救急隊員と密接に連携をとりながら地域の住民の命を守るという役割を果たし

ていきたいと考えています。

【松江赤十字病院救急部長 田窪】

周産期医療 死亡率格差解消を



体制手薄い離島・中山間

県協議会が始動

周産期医療の体制の格差は顕著で、母胎胎児集中管理室を設置しているのは出雲市の県立中央病院だけ。新生児集中治療室(NICU)は、益田市の益田赤十字病院を含め4カ所にあるが、病床数は出雲部の3病院に集中している。

産婦人科医らマンパワーの不足も深刻。以前から中山間地や離島での確保は難しかったが、少子化に伴う産婦人科、小児科医の志望者の減少や新医師臨床研修制度の導入、独立行政法人化に伴う大学病院の医師引き揚げで拍車がかかった。

医長関係者ら17人で構成する県周産期医療協議会の意見を参考に、県は平成16年度中に高度な医療機能、設備を持ち、中核を担う「**総合周産期母子医療センター**」の指定を目指す。

【山陰中央新報 04.8.10 より抜粋】

None Blue Rose



▼平成の市町村合併、島根県でも10月1日から現実なものとなり、来年3月末までには59の市町村が29となる見込みです。▼さて、合併する方向に決まった時点では、合併後の市町村の将来像やそのために必要なさまざまな事業計画などを市町村建設計画にまとめる作業を行うわけですが、保健・医療・福祉分野は住民の最大の関心事となっています。▼そのうち、安心して医療を受けられる環境整備は、やはり医師確保といった点にあります。▼厳しい財政状況での効率的財政運営の必要性をひとつの理由とした市町村合併が進もうとも、住民が平等に身近に医療を受けられることはとても大切なことです。我が「しまね地域医療支援センター」は医師確保や地域で勤務する医師を助ける苦勞は決して惜しみません。▼これからも、地域勤務医師の最大の味方としてしまねはガンバリます。

Itaru

参考 [島根県市町村合併ホームページ <http://www.pref.shimane.jp/section/gappei/>]

青い薔薇は園芸家の夢。藤紫、明藤色はあっても真の青はないのことで Blue Rose は不可能という意味。NoneBlueRose は私たちの地域医療への熱いメッセージです。

しまね地域医療支援センターの連絡先

(島根県庁医療対策課)

E-mail : iryuu@pref.shimane.jp

TEL : 0852-22-5251

FAX : 0852-22-6040

ホームページ [島根の医療] :

<http://www.wah.pref.shimane.jp/med/>